

第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	C 班
タイトル	日本におけるキャッシュレス決済の普及		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー	中田純平、藤谷大樹、堀田悠馬、川西詠、大川太瑚、塩谷周造、谷本成、北奥海人		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>現在、世界中で新型コロナウイルスによるコロナ禍が猛威を奮っている。そのため、店頭における客と店員の接触を減らすことができる非接触のキャッシュレス決済が注目されている。日本でも、現状政府が支払いのキャッシュレス化を推進しているが、諸外国と比較すると、キャッシュレス化の進捗は遅れている。</p> <p>2016 年の世界各国のキャッシュレス決済比率ランキングは、韓国、中国、カナダの順になっている。この 3 国はキャッシュレス決済比率が 50%を超えているが、日本は 19.8%である。私たち小山ゼミ II C 班は、なぜ先ほど挙げた 3 国と日本の間には決済比率の差が生まれたのか。日本におけるキャッシュレス決済の導入が遅れ気味である原因を分析したうえで、今後、日本にはどのような政策が必要なのかについて考察する。</p> <p>【研究内容】</p> <p>まず、日本では、今までも主に使われていたクレジットカードによるカード決済と、現在普及が少しずつ進んでいるスマホ決済が主なキャッシュレス決済方法である。カード決済は、主にアメリカや、ヨーロッパで普及率が高いため、その国々と日本にはどのような違いがあるのか。また、その国々では人々のカード決済を使用するインセンティブを高めるためにどのような政策が行われているのか。同様にスマホ決済についても中国、韓国を例にして考察する。</p> <p>キャッシュレス決済の中でも、日本ではカード決済よりもスマホ決済を推奨している。なぜ昔からキャッシュレス決済の用途として存在しているカード決済よりもスマホ決済が推奨されているのか。その理由と、カード決済、スマホ決済の用途の違いについて発表では触れている。また、なぜ推奨されているか、決済用途の違いの理由や背景を説明していく。</p> <p>【参考文献】</p> <p>キャッシュレス化推進に向けた国内外の現状認識 2018 年 2 月 8 日 009_03_00.pdf (meti.go.jp)</p>		